

# 傾聴エージェントの研究開発

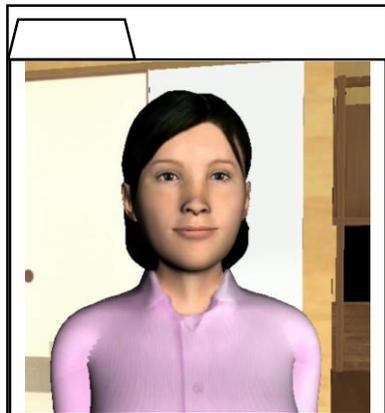
システムが高齢者に問いかけることにより話題を提供



## 2020年度の成果

### エージェントサーバの開発

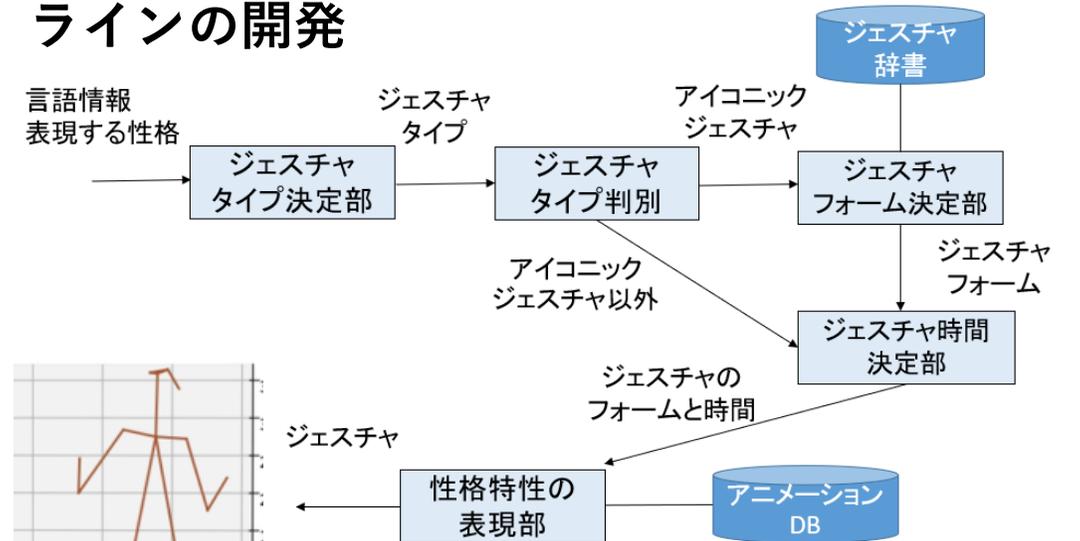
ブラウザ



エージェントサーバ

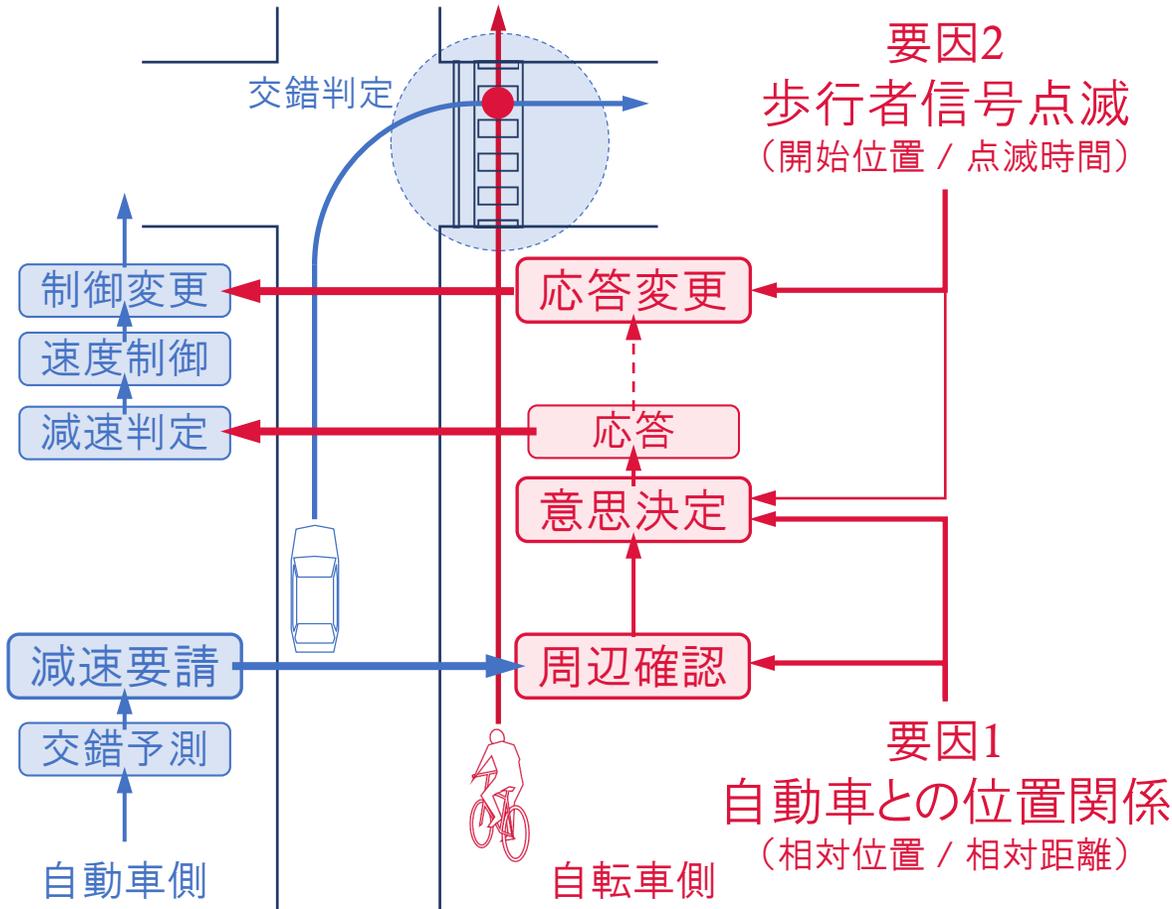
- 音声、表情特性の処理
- 対話システム機能
- アニメーション生成機能

### ジェスチャアニメーション生成パイプラインの開発

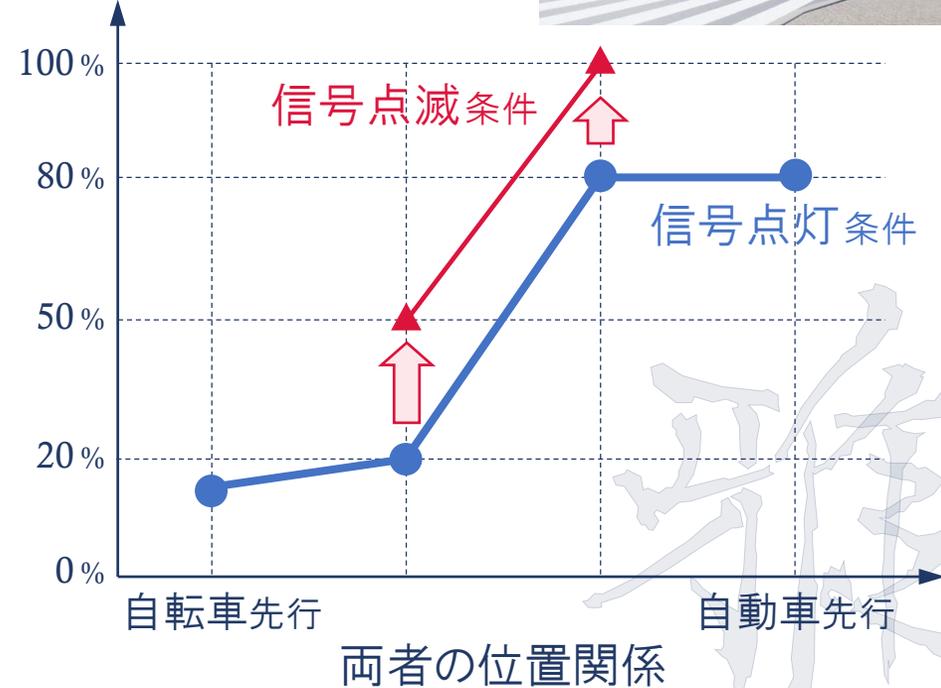


## 【実施目標】

- 情報通信を利用した自転車運転支援システムの設計, シミュレータ環境への実装
- 自転車運転者, 自動車運転者の双方の立場からシステムの効果評価



減速要請  
受入割合



## 【進捗状況】

- 自転車側の視点でシミュレータ実験を実施(参加者4名)
- 自転車運転者の意思決定・運転行動への影響(主要要因・特徴)を分析

# 2020年度活動報告 VSLAM\*を用いた視覚障がい者支援システムの開発

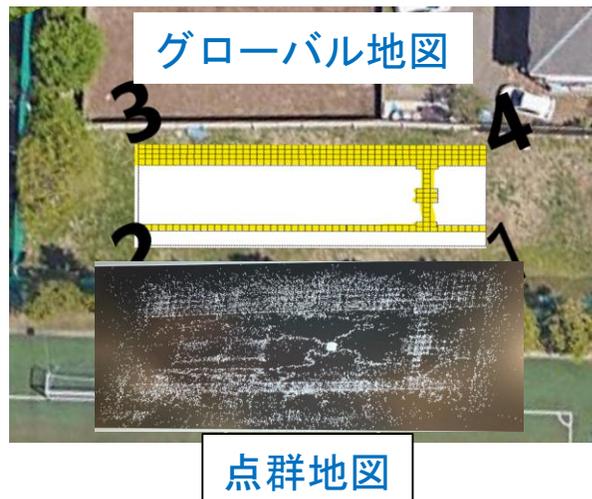
理工学部 鈴木 誠一

視覚障がい者の鉄道ホームにおける転落事故を防止するために、音声により危険情報を知らせるシステムを開発している。



危険回避と自然な音源認識には、位置認識から情報提示までの時間が十分速くなければならない。しかし、持ち歩き可能なCPUで、AIなどの高度なアルゴリズムを高速に計算することは難しい。

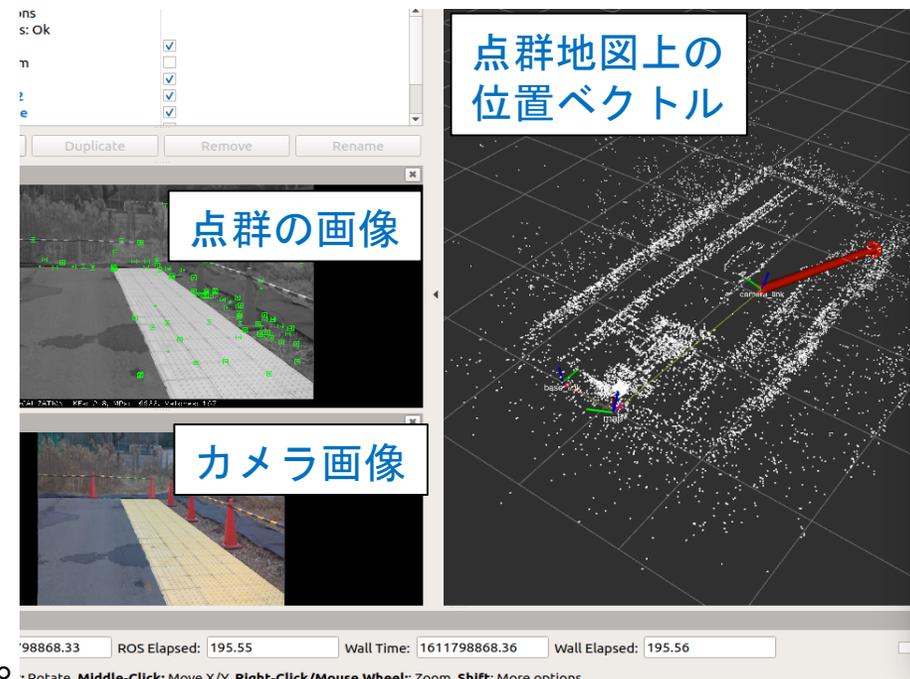
そこで画像から立体的な点の地図を作るVSLAM技術を用いて、高速な位置認識を試みた。



成蹊大学内に設置された模擬プラットホームを利用して、衛星測位システムによるグローバル座標地図と、VSLAMによる点群地図を作成した。

作成した点群地図をカメラ画像上の点とマッチングすることで、0.1秒以内で位置認識ができた。

認識された位置とカメラの向きが右の点群地図上に示されている。



VSLAMによる点群地図の作成は、カメラで領域内を撮影するだけで実現できる。このため、あらかじめ設計図などのある駅構内などでは、短時間で容易に地図を作成し、危険提示システムを利用することができる。

このシステムが実現すれば、比較的低コストで駅ホーム上の移動の安全性を高めることができると考えている。

# 視覚障がい者の駅ホームからの転落防止:

## ホームドアに依らない対策の検討

理工学部 大倉元宏

### 【目的】

転落防止にはホームドアの設置が極めて有効であるが、短期間での普及は難しい。そこで、ホーム長軸中央部へ触覚マーカ(30cm幅の線状ブロック)を設置した場合の効果検証を行った。屋外に模擬島式プラットホーム(全長15m×幅6m×高さ10cm)を設営し、2つのシナリオを用意した。高精度のGPSシステムで歩行軌跡を計測し、評価指標とした。

### 【方法・長距離移動シナリオ】

10名の視覚障がい者が参加した。男女5名ずつで、年齢は25~65歳、平均43.2歳であった。ホーム中程に模擬売店を設置し、模擬乗客(空気人形)を5体配した。ホームの一端から出発し、指示にしたがって模擬売店を右もしくは左に回避して他端に設定した目標点まで移動することを求めた。各参加者は触覚マーカの有/無の順で、4回ずつ試行した。

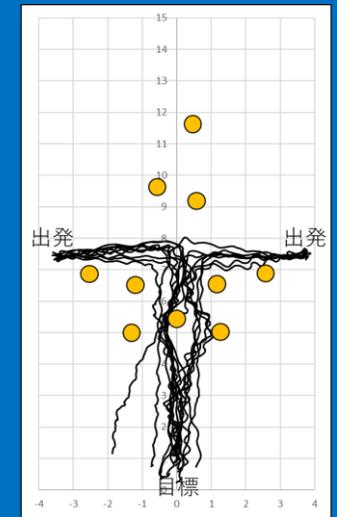
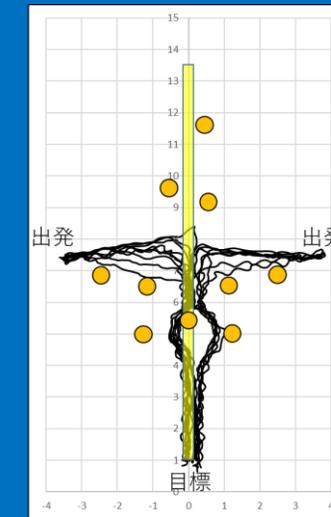
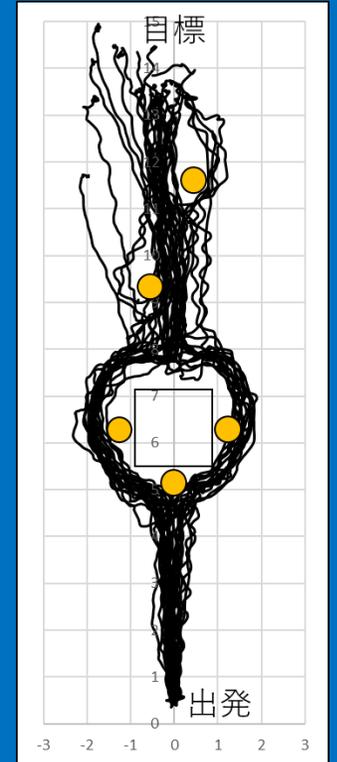
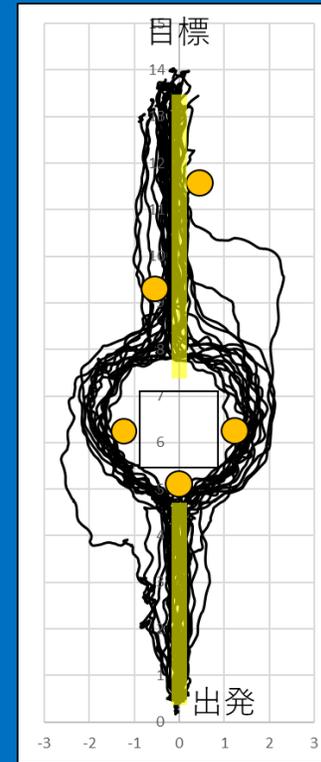
### 【方法・混雑シナリオ】

5名の視覚障がい者が参加した。男3・女2名で、年齢は31~56歳、平均45.6歳であった。両番線においてホーム中程に降車後、目標点まで向かうことを求めた。その経路に模擬乗客7体を配した。経路外にもノイズとして3体配した。各参加者は触覚マーカの有/無の順で、両番線から2回ずつ試行した。

### 【結果】

両シナリオとも触覚マーカがあると歩行軌跡の安定がみられた。長距離シナリオにおいて、模擬売店回避後、特に顕著であった。

また、参加者全員、触覚マーカ設置について賛意を示した。



触覚マーカ有

触覚マーカ無

# 澁谷智子 2020年度 研究成果進捗状況



元ヤングケアラー7人が  
その体験を執筆した著書を刊行。  
SYNODOSライブラリーでも  
取り上げられた。



2021.01.22 Fri  
わたし、かわいそうですか？——『ヤングケアラー わたしの語り 子どもや若者が経験した家族のケア・介護』（生活書院）  
澁谷智子（著者）



『子ども家庭福祉』の  
教科書でヤングケアラーの  
コラムを執筆。

『まちと暮らし研究』第31巻、  
『月刊ガバナンス』第235巻、  
『都市問題』第112巻第1号、  
『週刊医学界新聞』第3412号  
にも執筆。

第8回人権シンポinかながわ・日弁連貧困問題全国キャラバン 講演

## ヤングケアラー を支援するために



講師  
澁谷智子さん  
成蹊大学文学部現代社会学科教授  
著書『ヤングケアラー介護を担う子ども  
-若者の現実』（中公新書）



パネリスト  
竹村雅夫さん  
麻沢市議会議員  
元麻沢市立中学校教員



パネリスト  
沖村有希子さん  
福祉サービス事業所代表  
元ヤングケアラー

日時：2021年2月6日(土)10時～12時  
場所：zoom ウェビナーによるオンライン開催

申込み：事前に、以下のQRコードまたはURLからオンラインでお申込みください。  
(<https://www.kanaben.or.jp/news/event/2020/post-472.html>)

費用：無料

ヤングケアラーとは、家庭にケアを要する人がいる時に、本来大人が担うと想定されるような責任を負って家族の世話をし介護を行う18歳未満の子も連年です。子どもが年齢に合わない過度なケアを負い、「子どもらしい時期」を過ごせないことは、その学習や付き合い、進路にも影響をもたらす場合があります。

パネリストの竹村雅夫さんには、麻沢市での市立学校の先生方に対するヤングケアラー実態調査を基として、ケアを担う子ども連年の支援の取組みについてご報告いただきます。また、沖村有希子さんには、子ども時代の経験をおまえて、当時の思いや、必要な支援のあり方について、当事者の視点からお話しいただきます。

こうした話を伺うことを通じて、ヤングケアラーの実情を知り、その支援策について考えたいと思います。

主催 神奈川県弁護士会 共催（予定）日本弁護士連合会・関東弁護士連合会  
問合せ先 電話 045-211-7705(平日 9:30～16:30)

一般社団法人日本ケアラー連盟  
ヤングケアラープロジェクト 主催

## 学校における ヤングケアラー支援

ヤングケアラーは、さまざまな理由からケアをしていることを話さないために、周囲の人々に気づかれにくく、必要な支援につながらないことが指摘されています。そこで、ヤングケアラーの支援ニーズについての理解を深め、研究者および行政、当事者、教育現場、支援者の視点から、子どもにとって身近な環境である学校において、ヤングケアラーを支援していく意義と必要性を明らかにし、ヤングケアラーを対象とした学校における教育相談のあり方について考えていきます。

2021年2月27日(土)  
時間：13:00～16:30

オンライン：Zoom利用  
参加料：無料 定員：100名  
お問い合わせ：youngcarer@carersjapan.com

プログラム

- 〇基調講演：澁谷智子氏（成蹊大学教授）
- 〇埼玉県ヤングケアラー実態調査結果と支援施策：阿部仁氏（埼玉県教育庁市町村支援部人権教育課 課長）
- 〇パネルディスカッション：長谷川拓人氏 澁谷真佐美氏、長嶋宏子氏（麻沢市教育委員会教育指導課 指導主事） 持田恭子氏（一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会代表理事）

参加の流れ

- 〇右記の申込フォームよりお申し込み
- 〇申込内容が自動返信メールで届く
- 〇当日までに、参加URLのメールが届く
- 〇参加URLにアクセスし、zoomを起動

※事前にzoomの使用環境をご準備ください

申込フォーム：  
<https://forms.gle/=====>

- 〇お申し込みは、申込フォーム（上記URL）または右記QRコードよりお願いいたします
- 〇定員（100名）となり、お申し込みを待たずお申し込みの受付が終了いたします

申込締切 2/20  
定員になり次第締め切り

埼玉県のカンパの助成を受けています

埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議委員を務めたほか、神奈川県弁護士会のシンポジウム、日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト主催のシンポジウムなどで講演を行った。

# コロナ禍における高齢者の生活と地域活動の変容

## (渡邊大輔)

- ▶ 背景：新型コロナウイルス感染症の拡大によって、地域での高齢者の社会参加や介護予防活動が大幅に制限されている
- ▶ そこで、2020年6～7月に高齢者35名に電話での聞き取り調査を実施
  - ▶ 都市部と地方部での日常生活における地域間格差は大きい
  - ▶ 外出、交流を「自粛」している高齢者が多いが、心身の健康面への影響は調査時点では大きくない。ただし運動不足が発生
  - ▶ 直接、間接の交流頻度は低下。友人への電話頻度も低下との発言
  - ▶ 地域活動に積極的だった人は、活動が棄損されたと感じる人もいるが、活動を見直す機会と積極的に評価している人もいる
  - ▶ LINEやZOOM等のICT活用が増加。周囲のサポート資源の有無が重要。またこの活用は既存の人間関係や活動の上に成立していた
  - ▶ 高齢者にはこの状況に適応しようとするレジリエンス(回復力)がある
- ▶ 事例は国際長寿センター（ILC）をとおして英語、オランダ語で発信
- ▶ 2月下旬より20名強に追跡インタビューを実施中。国際連携での事例比較を目指す
- ▶ 2020年度のおもな成果
  - ▶ 渡邊大輔, 2021, 「コロナ禍における高齢者の生活再編」『老年社会科学』42(4): 346-353.
  - ▶ Daisuke WATANABE, 2021, "Taming Gambling: Wellness Mahjong in Later Life," Leisure for Older Adults in Asia, Asia Research Institute, National University of Singapore, 10-11/1/2021



Sae (75) & corona  
December 16, 2020

I THINK MY LIFESTYLE  
WILL STAY THE SAME  
FOR A WHILE

日本の事例をケース単位で発信



共同研究者の論文とともに学術誌にて特集論文を掲載

2020年度の目標・計画

進捗・達成状況

【目標】

地域共生社会に必要な財源調達に関する研究の取りまとめ



取りまとめには至っていない  
関連論文などの刊行は達成

【研究項目・計画】

森林環境税導入に至る受容性涵養等の補足  
追加ヒアリング



追加ヒアリング実施できず

共生社会実現財源としての森林環境税の教訓  
構造分析・租税論から見た分析



一定程度達成

武蔵野市の将来像と実現性の検証  
財政・課税シミュレーション



財政シミュレーションは本研究から除外  
課税シミュレーションは限定した条件下で開始



自治体への追加ヒアリング：20年度は見送り21年度以降に対応  
財政シミュレーション：20年度武蔵野市予算は11次の補正で大幅歳出増・基金取崩し  
税収の不透明さや人口動態・産業構造の流動化などから本研究では不可能と判断  
⇒簡易な課税シミュレーションに変更（ただし精緻さに大きな課題）  
21年度予定の海外での市民投票視察：断念（延期せず）

# 2020年度の研究進捗・成果報告

## 1) 社会構造の再編と地域的分極に関する研究 [成果：③、⑥、⑨]

✓ 不安定労働の時代にリスクにさらされる「普通の人々」の内実と特徴の検討を進めた

i.e. 困窮化する中間層 + 3つ集団から成る新しい労働者階級の顕在 \*先進国の多数派となる平均所得以下人々  
- 居住地域、年齢、学歴、雇用状況によって分化し、一体感が生じにくい。

特に、居住地の違いによって価値観をめぐる分極と対立が先鋭化 (コスモポリタン圏 vs. 地方)

## 2) 民主的代表性の危機に関する研究 [成果：①、②、③、⑤、⑥、⑧、⑨、⑩、⑪]

✓ 「普通の人々」による既存の政治システムからの退出と反乱および中長期的な傾向の実証研究をまとめた

i.e. Brexit、トランプ現象。日本での無党派層の増大と大量棄権

経済的に対立する立場 (平等主義的な再分配 - 市場重視) を超えて、帰属・価値観に由来するアイデンティティによって行動する「普通の人々」 理性・科学 < 情動

## 3) 共生社会を目指す政策アイデア / 政策デザインの研究動向と実践の研究 [成果：③、④、⑥、⑦、⑩、⑪]

✓ 社会的投資戦略とその政策効果検証後の発展型の検討を進めた

i.e. 1990s ~ 事後的所得補償 + 社会的投資、2000s半ば ~ 功罪の検証 (困窮層を素通りする「マタイ効果」)  
2010s ~ 当初 (事前) 配分、ベーシック・サービス、ベーシック・アセット

➤ 今後の研究の発展に向けて：現代デモクラシーの難題 := 分散化・流動化する人々のニーズを吸収し、違いを認めて対話・共生するための民主的チャネル(A)と政策的選択肢(B)とは？ (A)：現代社会での野党の役割の再検討、

(B)：ミュニシパリズム (公共財の地域社会における管理・自治) ?、市民社会形成の社会民主主義の検討